

周防国 33 観音霊場第 9 番

なるたにさん

ちょうとくじ

曹洞宗

鳴谷山 長徳寺



本尊 十一面観世音菩薩
本山 永平寺（道元禅師）福井県永平寺町
総持寺（瑩山禅師）神奈川県横浜市鶴見
本寺 溪月院 山口県光市小周防新宮
恒例行事 1月1日 新年祈祷法要
3月18日 観音縁日
所在地 山口県光市立野1451-1 ☎0833-77-1646
現本堂は平成12年3月に完成

右のQRコードを携帯やスマートフォンで読み取ると簡単に地図にアクセスできます。



やすらぎ観音

檀家の皆様の要望により平成14年に建立開眼供養された。台座の部分に納骨することができる。檀家の方で合同墓への納骨を希望される方々の要望に応じている。正面には「集う」と刻してあり、長徳寺に縁のあった方々が集い合い、縁故者が香を手向け合うこととしている。観音像は左手が施無畏印、右手が手を下げて手の平を前に向けた与願印を示しておられる。



南無塔

やすらぎ観音塔への納骨が檀家の方々専用とされているため、檀家外の方々からの要望もあり、平成24年7月に建立された。台座の部分に納骨でき、台座上部にはスツーパーを立てている。



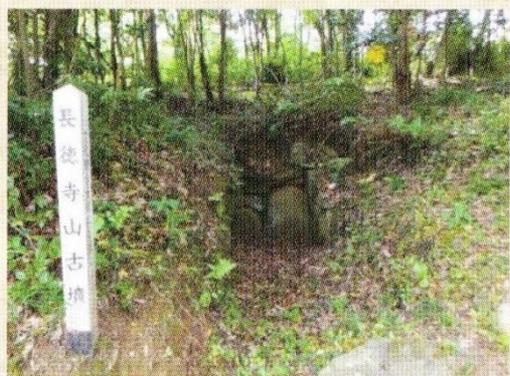
ぼけ除けさすり地蔵尊

自分の身体の悪い個所があれば、地蔵尊のその部位をさすれば症状が改善、平癒する功德がある。地蔵尊奉安は昭和61年。地蔵堂は平成4年に新規に建立された。



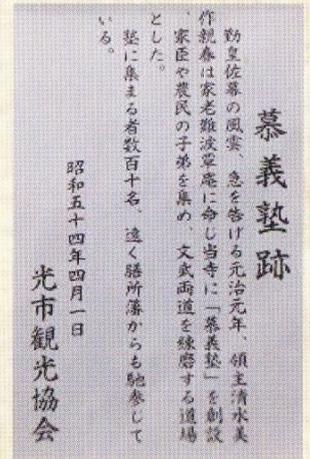
長徳寺古墳

長徳寺に至る車道の途中にあり、長徳寺山第一号古墳と呼称されている。横穴式石室が残っており、ここから圭頭太刀、鉄刀子、朱をかけた須恵器を出土している。



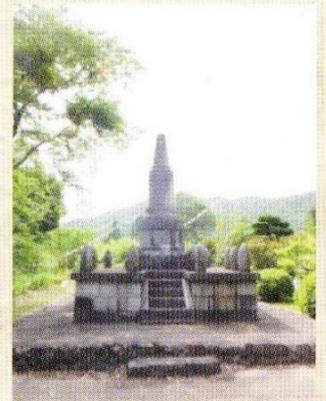
慕義塾

幕末の元治元年（1864）立野領主、清水美作が家老難波覃庵に命じ当寺に家臣や地域の農民を集め文武を学ぶ道場を創設した。この塾で学んだ塾生が光市塩田にあった第二奇兵隊に合流し、幕府軍との戦い四境戦争、大島の戦いなどに参加していくこととなった。塾生には遠く膳所藩から参加した村田精一などもあった。彼の墓は当寺歴住墓所に建てられている。



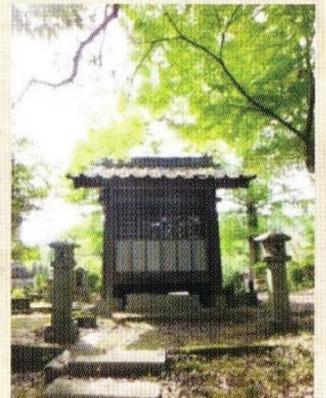
忠魂碑

大正15年3月、旧周防村民が建立したもので、日清戦争、日露戦争、その後第二次世界大戦での周防村出身戦死者、戦病没者を合祀している。毎年4月に地区の遺族会によって慰霊祭が開催される。忠魂碑の揮毫は男爵田中義一である。



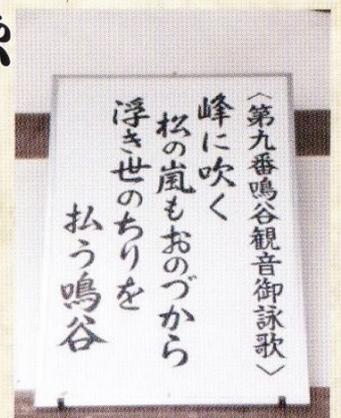
八幡宮社

防長寺社由来第二巻熊毛宰判立野村の長徳寺の項（寛保元・1741年）に既に記述があるものの詳細な由来は不詳であるとされている。祭神は八幡神で武運の神である。



国防国観畜霊場第九番札所 御詠歌

当山は元法相宗。開創のきっかけは百済国聖明王の第三皇子琳聖太子が鳴谷の地に堂を立て懐持仏を奉安されたことによると伝えられている。右の御詠歌も琳聖太子により詠まれたと伝承されている。



長徳寺の由来・縁起



当山は、寺伝によると今から1400年余り前、推古天皇（593～628）の御宇大内家の先祖百済国の第三皇子琳聖太子の開創と伝えられている。

太子が日本に帰化、鳴谷の地を通られたとき、百済国より奉持したもう一寸八分（約5.4センチ）の観音の尊像を一字の宝殿に安置されたという。その像は現在不明。精舎が建立され、長徳と号し数多の荘園が寄進されたという。

その後、安阿弥なる者来たりて、霊仏を粗末にしては恐れ多いとして一尺八寸（54センチ）の十一面観世音の像を彫刻、霊仏を胎内仏とし、礼拝対象としたのが今の本尊となる。

また、後に不動明王、毘沙門天王が彫刻され、本尊の左右に安置された。

室町時代、防長守護職大内家24代大内弘世公が開創された周防国33観音霊場の第9番札所となり、その後、大内家代々の信仰ありて伽藍が修補されたという。寛永元年（1624）正月六日、火災に遭う。「寺僧身の危険を顧みず三尊を守護奉りたり」と伝えられている。

鳴谷会館水内堂

本堂裏側の会館は、平成27年11月に落慶。

当山護持会役員会、護持会総会、法要時の檀信徒の方々の食事、仏教講座、周防三十三観音霊場巡拝者や長徳寺霊園墓参者の方々の休憩、檀信徒等のふれあい活動の場として、また、葬儀や法事等の仏事会場として、さらには、災害時の避難場所として多目的に活用される。

